

「第3回大船渡線沿線自治体首長会議」

議事次第

日時：平成27年12月25日（金）13:15～14:15

場所：国土交通省中央合同庁舎3号館4階

幹部コーナ－会議室

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 議 事

(1) 東日本旅客鉄道株式会社からの現状報告

(2) 各自治体からの検討結果の報告

(3) 大船渡線の復旧方針について

4. 閉 会

(配付資料)

- ・大船渡線沿線自治体首長会議 名簿
- ・東日本旅客鉄道株式会社作成資料

大船渡線沿線自治体首長会議 名簿

山本 順三	国土交通副大臣（座長）
戸田 公明	大船渡市長
戸羽 太	陸前高田市長
菅原 茂	気仙沼市長
千葉 茂樹	岩手県副知事
三浦 秀一	宮城県副知事
（代理）大塚 大輔	震災振興・企画部長
深澤 祐二	東日本旅客鉄道株式会社代表取締役副社長
藤田 耕三	国土交通省鉄道局長
内海 英一	復興庁統括官

（敬称略）

BRTのサービス向上に向けた主な取り組み状況

1. 利便性向上

①新駅設置

2015年3月までに復興まちづくりの進捗に応じた交通手段を提供するため、自治体の要望に基づき6箇所の新駅を設置。通学・通院・買い物などの利便性向上に貢献。

(大船渡線：長部、奇跡の一本松、高田高校前、高田病院、基石海岸口、気仙沼線：ベイサイドアリーナ)

2015年12月には大船渡市からの要望を受け、「大船渡魚市場前駅」を新設し、大船渡市魚市場へのアクセスを向上。



大船渡魚市場前駅開業

②専用道延伸

専用道は、2013年3月大船渡線1.9km、2012年8月気仙沼線2.1kmから供用開始し、現在までに、大船渡線16.2km、気仙沼線22.7kmに順次延伸。

今後、大船渡線BRTでは、陸前高田駅付近区画整理事業区域等で専用道整備を計画。

[現在：16.2km/43.7km (37%)

⇒計画：22.4km/43.7km (51%)

気仙沼線BRTでは、河川堤防整備に伴う橋りょう架け替えについて宮城県と協議を進め工事に着手。橋りょう前後の区間等で専用道整備を計画。

[現在：22.7km/55.3km (41%)

⇒計画：49.7km/55.3km (90%)



③ダイヤ改善・接続改善・ルート変更

- ・2014年8月、大船渡駅周辺土地区画整理事業に伴い、下船渡～盛間を専用道から一般道にルート変更。
- ・2014年12月、高田高校再建に伴うルート変更を実施するとともに、2015年3月、高田高校前駅を新設。
- ・2015年3月、陸前高田駅を市消防防災センター等整備事業区域内に移設し、駅舎を新設。
- ・2015年4月、志津川地区土地区画整理事業に伴い、志津川～清水浜間を専用道から一般道にルート変更。
- ・2015年6月、地元高校生の意見をもとに、登下校時間帯のダイヤ改正。
- ・2015年10月、河川改修工事により、気仙沼線BRT歌津～陸前小泉間の運行ルートを変更。同時に陸前港駅・蔵内駅の移設を実施。
- ・2015年10月、陸前矢作駅・竹駒駅から気仙沼駅方面への乗換利便性を向上。
[陸前高田駅での乗換時間：従来最大58分⇒改善後4分へ]
- ・2015年12月、地元高校生の意見をもとに、下校時間帯のダイヤ改正及び車両を変更。[高田高校17:05発⇒17:10発へ変更し下校時刻に配慮。車両も観光型から定員の多い一般型に変更]

④気仙沼線BRTの延伸・柳津での乗換利便性向上

2015年6月、前谷地～柳津間を延伸して運行開始し、石巻・仙台方面への利便性・速達性を向上。



前谷地駅



2. お客さまの声の収集

① 高校生意見交換会の実施

2014年度より沿線の9高校の高校生を対象に、各校別にアンケートと意見交換を実施し、利用状況やダイヤ改正等要望を把握し、BRTのサービスを向上。

2014年度：6高校実施 2015年度：9高校実施(予定)



② BRTモニター募集・ご意見収集

高校生以外の一般の方からも、BRTご利用時のご意見を収集し、さらなるサービス向上につなげる目的で、モニターを募集。2015年度に初めて実施し、現在アンケート収集中。

沿線5市町(大船渡市・陸前高田市・気仙沼市・南三陸町・登米市)に在住の方 計500名。



3. 地域貢献・地域活性化

① 首都圏でのBRT沿線地域のPR

2014年3月より岩手県沿岸振興局などと協力し、三陸沿岸地域の物産販売を行う「三陸のものマルシェ」を実施。地産品PRと販売、観光PRにより地域の魅力を発信し、首都圏での認知度を高め地域振興を図る。

2014年度まで：秋葉原駅5回(15日間)

2015年度：秋葉原駅(3日間)・上野駅(3日間)
・大宮駅(3日間予定)



③ 社会科見学会

2013年度より小学生・幼稚園児を対象に、BRTの仕組みや体験乗車など、地域交通としてのBRTを学ぶ機会を提供。2015年度までに3校実施。



② 沿線自治体産業まつりなどへの出展

2014年度より沿線自治体等が主催する催事への出展・体験試乗会・車両展示・ジオラマ展示等を行い、地域における認知度を向上するとともにお客さまの声を収集。

2014年度：沿線3市町(大船渡市・陸前高田市・南三陸町)、バスまつり(仙台市・盛岡市)

2015年度：沿線5市町(大船渡市・陸前高田市・気仙沼市・南三陸町・登米市)、バスまつり(仙台市・盛岡市)



④ 旅行商品の企画・販売

三陸沿線を周遊する旅行商品を企画し販売開始(2015年10月)。首都圏からの誘客を促進。



⑤ BRT沿線の魅力発信

沿線地域の魅力を発信するため、BRTを利用した旅番組を制作し放映。(2015年10月：日本テレビ、11月：ミヤギテレビ・テレビ岩手)

平成 27 年 12 月 25 日
東日本旅客鉄道株式会社

大船渡線の BRT による本格復旧について

大船渡線の BRT による本格復旧にあたっては、国、県等関係機関のご協力もいただきながら、沿線各自治体と一体となって以下の項目を実現し、沿線地域の振興や活性化に取り組んで参ります。

1 BRT の存続について

BRT については、復興に貢献する持続可能な交通手段として、今後も弊社で責任を持って運行するとともに、フリークエンシーの確保や更なる利便性向上に努めて参ります。

2 地域交通の活性化への貢献について

復興まちづくりの進捗等に合せて、柔軟なルート変更や駅の移設・新設を行っていくとともに、他の地域交通機関と連携して地域の基幹交通としての役割を果たして参ります。また、更なる専用道の整備を進め、速達性・定時性の確保に取り組んで参ります。

3 交流人口拡大に向けた利便性の向上について

BRT と鉄道との接続利便性向上に取り組んでいくとともに、新幹線との接続改善や新幹線駅へのアクセスの利便性向上に向けて検討を進めます。

4 産業や観光の振興による地域の活性化について

観光 PR や旅行商品造成等を通じた観光振興、沿線地域の地産品 PR・弊社グループを通じた販路拡大・6 次産業化への取組み等、地域の皆様と連携して地域の活性化に取り組んで参ります。

5 今後の協議について

地域の特性を活かしていくために、今後も沿線各自治体等と個々に協議を進めて参ります。なお、自治体のご指導・ご協力の下、会議体等の場を通じて、BRT をご利用になるお客さまからのご意見、ご提言を把握し、引き続き BRT の利便性向上と利用拡大に努めて参ります。